

みちのくのかくのくに小京都・角館の町並み 文化財保存は材の耐久性向上から



秋田県仙北市教育委員会
文化財課 課長 太田 和彦 氏

岩橋家の場合、木羽には樹齢200年近くの天然秋田杉を使っています。これを柱目に沿って薄く割り、屋根材とし葺いてから、木材保護塗料としてキシラデコール「やすらぎ」を塗っています。

太田 ● 屋根材は、日に焼けたり風雪にさらされたりして、次第に苔むしてきます。そのように、時間とともに移り変わっていく様がいいと思います。キシラデコールは木質感をそのままに生かしながら紫外線による劣化を防ぐので、そうした自然な風合いをうまく表現してくれるんです。

文化財の保存ではこれまで、木材保護塗料としてキシラデコールをずっと使ってきましたが、トラブルは一切起きていないので、全幅の信頼を寄せています。木材保護塗料としてキシラデコールを塗るのが、ここでは当たり前のようになっていますね。

太田 ● 角館の特徴は武家屋敷群で構成する町並みです。とりわけ屋敷の樹木と黒塀の対比は美しい。秋には紅葉と黒塀の対比が、春にはしだれ桜と黒塀の対比が、初夏には新緑と黒塀の対比が、それは見事です。水墨画のような冬の景色もとても風情があります。黒塀は角館の象徴でもあるので、美しさを保つためメンテナンスにも力を入れています。

「伝統的建造物群保存地区」には、幅員11mの通り沿いに720mにわたって、江戸時代以降の武家屋敷群が点在しています。現市長の住む石黒

太田 ● 2006年度から07年度までの間、文化庁の伝統的建造物群保存事業の一つとして、国や県から補助金を受けて、屋根の葺き替え工事を実施しました。総事業費は2年間で約1600万円。事業費は、国で2分の1、県で4分の1、市で4分の1を、それぞれ負担しています。

市では05年度中に設計者を選定し、その設計に基づいて葺き替えの仕様を決めました。木羽葺きと言われるもので、まず06年度に補助事業として上屋根を改修し、07年度も継続事業として下屋根を改修しました。「木羽」というのは「ザグ」とも呼ばれるもので、杉を柱目(まさめ)に沿って薄く割った材のことで、木羽葺きは、この材を幾重にも積み重ねたものを屋根材として用います。



城下町・角館の町並み。真っ直ぐな道路と黒塀、広々とした敷地の武家屋敷群、屋敷内の巨大な樹木、という構成は、力強さと美しさを兼ね備える



秋田県指定文化財の岩橋家。江戸時代末期に改造された際、茅葺きから木羽葺きに変えられたと伝えられている。下屋根は今秋葺き替えを終えたばかり。



家もこうした武家屋敷の一つとして文化財の指定を受け、一般に公開されています。

この地区の景観をどのように保存していくか——1978年4月、当時の角館町によって「保存計画書」が策定されました。この中で黒塀の扱いに関しても言及していて、塗り替える場合には、①黒系か茶系②つやなし③防水・防藻、という条件を満たす塗料を用いるように、と定めています。これを踏まえて、当初から現在までずっとキシラデコールを使っているということになります。

太田 ● 冬は1.5mほど雪が積もることもある土地柄です。塀の下の方の色落ちして白っぽくなったり、塀沿いの水路付近では、苔が付いて緑がかったりします。色落ちしてきたら目視で判断して、できるだけ早く塗り替えを勧めるよ

町並みを象徴する黒塀の保護にも

うにしています。

市職員も2年おきくらいに、榊細工伝承館の周囲を巡る黒塀の塗り替えに携わっています。作業担当者がまず高圧洗浄で汚れや苔を洗い流して、その後、キシラデコール「ジェットブラック」を1回塗ります。一般的には2回塗りだと思うのですが、材が古く吸い込みがとていいので、1回塗りで十分ですね。市長もご自分で、自宅の黒塀を少しずつ塗り替えているそうですよ。

太田 ● 文化財としての価値を維持するには、材はそのまま使用するというのが基本です。だから、腐ってしまった場

合には、腐った部分だけ取り替えて、継ぎ足しでしのぎます。それだけに、長い間にわたって材を持たせていくということが、文化財保護の観点から、とても重要な意味を持ちます。

ところが、それがなかなか難しい。例えば、岩橋家の木羽葺きにしても、文化庁からは20年は持たせるようにと指導されているのですが、角館では積雪もあるので、気候条件を考えると、一筋縄ではいかないのが実情です。

材を少しでも長く持たせるためにはどうするか——私たちの結論は、屋根材にもキシラデコールを使うということ。木材保護塗料としてキシラデコールを用いるというのは、材の耐久性を少しでも高めようとするときに最も適切な手立てだと思います。



【お問い合わせ先】

木とともに生きる。[キシラデコール]
XYLADECOR

キシラデコールに
関する情報満載!
www.xyladecor.jp



読者を対象に、建材の専門メーカーの製品に関するアンケート調査
2007年9月12日付

製造販売
日本エンバイロケミカルズ株式会社
販売: FDI Parita Dico Group

大阪 〒541-0051 大阪市中央区備後町三丁目6番14号 アーパックス備後ビル TEL. 06-6268-3428 FAX. 06-6268-3420
東京 〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーパズN館9階 TEL. 03-5444-9872 FAX. 03-5444-9860